

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/09/04 ～2019/09/30)

1. 勉学の状況

プリンスエドワード島について早1か月経った。予想はしていたがやはり授業中はその講義内容になかなか追いつけていないと自覚している。もちろん、日本での留学に向けての事前準備などの講義を参考にして、ある程度ここでの専攻について勉強していた。また授業の復習も自分なりに努力して行っているが、それでもまだまだ足りずに授業全体の6割程度しか頭に入っていない。そのほかにも友達、教授と会話する際にも英語能力の不足を実感している。あと7か月位はあるが、一日一日を大事にして新しいことをしっかりと身に付けていきたいと思う。

私が先行しているのはビジネス学とコンピューターサイエンス学であるが、ビジネス学は正直に言うと想像していたものとは異なり、続けていきたいという気持ちは薄れてきている。たいしてコンピューターサイエンス学のほうはプログラミングの基礎的内容、主にJAVAに関して学んでおり簡単ではあるが自分で作ったプログラムを実行し、ミスがあれば諸所で訂正しながら正解に近づけていくという作業がかなり気に入っており楽しく学習できている。Winter Semesterでもこのまま順調に進んでいけば次のレベルに挑戦してみたいと思っている。

2. 生活の状況

生活の状況に関して、長らく日本で生活していた結果いくつか順応するのは大変だった。私は寮に住むことになったのだが初めにいろいろ壊れていて報告しなければいけなかった。またルームメイトがなかなか現れなかったので係員に聞いてみるとルームメイトの名前は知っているがいつ到着するかわからないということだ。適当すぎてさすが海外の大学だと思った。またルームメイトが到着して一緒に過ごしている間にもカルチャーショックや他人の生活リズムも異なり深夜に爆音で音楽をかけるなどかなり苦労した。本人の性格自体は悪い人ではないため、一か月たった今ではかなり落ち着いて関係も改善しつつある。次に気温については9月を通してはかなり快適で過ごしやすいつと感じていたが、10月に入りいきなり外気が冷え始めてきた。常に体調に気を付けて過ごしたいと思う。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/12/01 ～2019/12/31)

1. 勉学の状況

私の留学期間も折り返し地点となった。ファイナル試験が12月中旬に終了し、しっかりと単位を取ることができた。まずミクロ経済の授業では比較的心配もなく順調に学習を進めることができたと思う。というのも入門の授業で難しくなかったことと週に3回と授業数が多く復習する時間を取りやすかったからである。二つ目のマーケティングの授業では初めての完全オンライン授業という慣れない授業体制のもとでの学習で想像していたよりも範囲が広く教授も適当な人だったためどのようにして対策すればよいか正直わからなかったがなんとかあった。起業・経営の授業では他の授業のテストとは一線を画し、あらゆるケースに臨機応変に対応するような柔軟な発想力が試されたと思う。ファイナルペーパーも北米の市場を徹底的に調べ上げ、日本とは異なる需要に対するアイデアを練り上げることが難しかった。コンピューターサイエンスの授業では授業内容は難しかったものの、興味自体は終始薄れることはなく他の正規フルタイムの学生がドロップしていく中でしっかりと最後まであきらめずに頑張れたと思う。結果としては約平均7.5割となかなか自分では満足している。来学期はコンピューターサイエンスをさらに専門的に学ぶと同時に新しい分野の開拓も行っていこうと思う。

2. 生活の状況

生活は万事うまくいっている。寮に入ってははじめは不安だったが、結果ルームメイトやその友達とも仲良くできた。ルームメイトが変わってしまうことが残念なくらいである。日本食が食べられないことが思ったよりもストレスになっていてどうしたものかと一時期考えていたが、日本人の学生とも関係を築くことで彼らの家で趣味の料理をすることができ、二重のストレス解消となってかなり生活水準はよくなった。友人関係に関してはいろいろな人々と付き合いしていく中で取捨選択が個人的には難しかったと思う。カナダは周知のようにマリファナが合法なため、約半分位の生徒が使用しており、パーティなどでこれをやらないとなるとあまりいい印象を持たれない。私は以前からマリファナを使用しないと心に決めていたため、正直のところこんなことで友達関係がなくなるのかと少し残念に思えたが、それ以外のひと、しっかりと信頼できる人々と付き合いがいけばいいかなとの結論を出した。普通程度の数ではあるものの、健全でよい友人関係を保てていると思う。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2020/03/01 ～2019/03/31)

1. 勉学の状況

最終月となり、残りの授業はオンラインとなった為日本で受講することに決めた。最後のタームではコンピューターサイエンス、環境学に特に力を入れた。コンピューターサイエンスではプログラマーとして黙々とコードを書いていた時期もあったが、一方でオブジェクト指向の授業であった為、どの目的で何を設置するか等をペアで議論し合う機会がたくさんあったことでより困難と楽しさを実感することができた。環境学の授業では国や NGO 等のマネジメントの立場から相手や自分の利害調整を含めた複雑なディスカッションを行った。この授業ではもともとのお国柄か環境に対する志向や知識の深さに驚かされるとともに、自分のこれまでの客観的分析力を試し、さらに向上させる良い機会となった。

2. 生活の状況

生活は万事うまくいっている。寮を出る際に、寮長から何故かこのまま寮に住み続ける手続きを勝手にされていたので、ここはしっかりと話しあい拒否することができた。こういった面でも少し留学生はなめられている感じがした。その後友達とシェアハウスをしていたが、友達の毎日作るカレーの匂いが服に沁みついてしまい心の中では少し不満があった。何度か喧嘩したことがあったが、自分の主張をはっきりということの大切さと、口論できるまで英会話力が上達したと実感できた。